

バルーン式携帯型ディスポーザブル注入ポンプをお使いの患者様へ

バルーン式携帯型ディスポーザブル注入ポンプとは

バルーン内に薬液を注入し、バルーンが収縮することにより、薬液の持続注入を行うことができる注入器です。また流量制御部の中を薬液が通過することにより、注入速度を一定に保つことができます。

注入ポンプの種類と注意点



シュアーフューザーA（ニプロ）



ペインブロッカーポンプ
PCAタイプ
（クリエートメディック）

- * 7日間持続注入することができます。
- * 流量制御部を肌に密着固定してください。

* ペインブロッカーポンプPCAタイプをお使いの患者様へ

持続注入していても、痛みが残っている時や強い痛みが出た時にPCAボタンを押してください。PCAボタンを1回押すと、1時間分の薬液が追加注入できます。2回目にPCAボタンを押す場合はPCA部分に薬液が充填される15分間待ってください。

PCAボタンをいつ、何回押したかを記録して、主治医に伝えてください。次回の薬の量を決める参考にします。

★注入ポンプの使用開始時間をラベルに、終了時間を容器の白い部分に必ず記載してください。

★終了した注入ポンプは次回来院時、必ず病院に持参し、診察場で返却してください。

裏面もご覧ください。

注入ポンプを用いて持続皮下注射が行われます。持続皮下注についての質問（A）と回答（Q）をまとめてみました。この他、お知りになりたいことがありましたら、医師、看護師、薬剤師にお尋ねください。

持続皮下注射Q&A

Q：針をつけたままで痛くないのでしょうか？

A：注射針は皮下に留置して、しっかり固定すれば痛くありません。針は27G針を使います。金属アレルギーをもつ人には使用できない場合もありますので、主治医に伝えてください。

Q：針は皮膚にどのように固定すればよいのでしょうか？

A：留置針はしっかりと皮下に挿入し、刺した部位が見えるように透明のフィルムで覆って、皮膚の状態が観察できるように固定します。延長チューブは布絆創膏でしっかり固定します。

Q：針の留置期間はどれくらいでしょうか？刺す部位は毎回変えるべきでしょうか？

A：針の留置は薬剤の吸収率に関係なく、最大1週間くらいです。1週間ごとに刺し替え、刺す部位も変えてください。発赤や硬結（針を刺した所が硬くなること）が見られたら、1日目でもすぐに刺し替えてください。

Q：どんな時に針が外れますか？外れた時はどうすればよいのでしょうか？

A：針を刺した部位をぶつけても、針が抜けることはほとんどありませんが、延長チューブを強く引っ張ったり、刺した部位を引っ掻いたりすると外れることがあります。また、せん妄（不穏な状態）のある患者さんでは自分で針を抜いてしまうこともあります。その場合は、患者さんの手の届きにくい背中や太ももに針を刺すことができます。

Q：針を刺した部位が赤くなってしまいます。どうしたらよいですか？

A：皮膚刺激のある薬剤や、薬剤の投与量が多い場合、針を刺した部位は発赤・硬結することがあります。皮膚刺激の強い薬剤には、ステロイド（リンデロン、デキサメタゾン）を混合してある程度発赤を防ぐことができます。（薬剤によっては混合できない場合もあります。）

Q：点滴のように高い位置に注入ポンプを置かなくてもよいのでしょうか？

A：注入ポンプは患者さんの高さに置いてください。持ち運びもポシェットや布袋に入れて持ち運ぶことができます。

Q：入浴時はどうすればよいのでしょうか？

A：短時間であれば留置している針を抜いて、入浴するのが一番安全です。

入浴後、再度針を刺すことができない場合は、針を抜かずに入浴時、ポンプから延長チューブを外して針を刺した部位と延長チューブを防水フィルムで覆ってしまいます。そして入浴後、延長チューブを再接続します。

<参考資料>各メーカー添付文書

筑波メディカルセンター病院：「緩和ケアにおける持続皮下注射の実際」